

16 デンマークの日本研究

オローフ・リディーン (コペンハーゲン大学)

デンマークの日本研究の話は簡単です。というのは、デンマークにおける日本研究者は、私のほかにあと2、3人しかいないのですから。

北欧の日本研究についての最近のデータがありますが、それによると、1960年代までは何もなかったのです。コペンハーゲン大学が、1961年から日本語を教えるようになりましたが、これは初心者のための日本語講座で、高校生ぐらいのレベルにすぎませんでした。

でも、60年代にはいろんな先生がいました。最初の先生は、現在大阪外大におられる岡田れい子教授でした。彼女はデンマークの文学を勉強しに留学された人です。日本語のプログラムは、イースト・エイジアン・インスティテュートの一部に初めから入っていましたが、この極東アジア研究所の出発は、中国語と中国のことを研究するところがありました。だから最初の正規の教授のイグル先生は、中国関係の分野の学者だったのです。それは1958年のことでしたが、このイグル先生が、中国語以外の言語、つまり日本語、アイヌ語、タイ語などに言語学者としていろんな興味を持っていましたので、彼を通じて日本語の講座も導入されることになったのです。

私がコペンハーゲンに来たのは1968年でした。デンマークの日本研究が始まったのはその時代からです。学生たちは言葉だけではなく、文学・思想・歴史・言語学・美術などを研究するようになり、4人の学生が博士論文を書きました。そのテーマは、鎌倉思想史、アイヌの言語、平安時代の言語学、明治文学についてでした。修士論文の数は、これまでに約30本ありますが、その内で、一番ポピュラーな分野は、文学と歴史です。しかしその中で有望な学生は2人とも言語学士で、現在東京大学で留学生として勉強しています。

今のコペンハーゲン大学の状態は、正式のスタッフが3人しかいません。教授の私と助教授の長島さん、K・レフシュグさんだけです。他にアシスタントが2人、日本人1人とデンマーク人1人がいて、彼らがよく働いていますので、本当のスタッフは5人ということになります。もう1人欲しいのですけれども、候補者はいても、現在のデンマークは不景気なため、可能性は少ないと思います。学生数は約100人で、毎年少しずつ増えていきます。日本研究は最近世界中でブームなので、同じ傾向が続くと思います。

北欧、スカンジナビア全体について言いましても、やはり日本研究は1960年代からといえましょう。スウェーデンは20年代に少し日本研究がありましたけれども、それは一時的な現象で、本格的な日本語の講座が大学にできたのは、やはり1960年代初めからです。ですから、北欧、つまりフィンランド・スウェーデン・ノルウェー・デンマークの日本語学習と日本研究は、大体1960年代からとみればよいでしょう。